

1 調査の目的

被貸与者へのアンケート調査を通じて、現行制度の効果検証を行うとともに、制度変更を行った場合の実効性を検証するため

2 調査について

東京都地域医療医師奨学金（特別貸与）被貸与者242名に対して、「受験理由・併願大学」、「現行制度と条件が異なっていた場合の受験の有無の想定」及び「総合的な満足度」について、アンケート調査を実施

○調査期間：令和元年12月27日～令和2年1月5日

○回答状況：214名/242名（回収率88.4%）

3 調査項目

- 地域枠制度を利用して大学に入学した理由 ○併願した大学
- 貸与額・勤務地の条件が異なっていた場合の東京都地域枠（現在通っている大学）の受験の有無
- 地域枠制度を利用して大学に入学したことの総合的な満足度

4 結果概要

受験理由・併願大学

- 地域枠の受験理由（上位3項目）
...①「学費の負担が実質的にかからない」96.7%、②「小児医療・周産期医療・救急医療に関心」69.6%、③「周囲(家族・塾関係者等)からの勧め」43.9%
- 併願大学（上位3項目）
...①「国公立医学部」81.3%、②「私立医学部（地域枠以外）」46.7%、③「医学部（地域枠）※入学した大学以外」36.9%
⇒学費負担の軽減が受験理由の最上位で、診療分野への関心は2番目。また、8割を超える被貸与者が国公立大学の医学部を併願している。

現行制度と条件が異なっていた場合の受験の有無の想定

- 貸与額の条件が以下の①～⑤の場合に「受験した・どちらかと言えば受験したと思う」を選択した者の割合
①学費全額：92.1%、②月30万円(2,160万円)：67.3%、③月20万円(1,440万円)：34.6%、④月10万円(720万円)：21.0%、⑤自己負担国公立同程度：68.2%
【杏林大学(学費3,700万円)のみ】①学費全額：95.2%、②月30万円：41.7%、③月20万円：16.7%、④月10万円：14.3%、⑤自己負担国公立同程度：84.5%
⇒受験者は「学費全額」貸与に魅力を感じており、学費の自己負担額が増えていくにつれ、受験生の確保・水準維持が困難になる。
- 勤務地の条件が以下の①②の場合に「受験した・どちらかと言えば受験したと思う」を選択した者の割合
①指定勤務9年間のうち4年半の勤務場所を23区以外の病院に限定：63.1%
②総合診療・外科を追加する一方、指定勤務9年間のうち4年半の勤務場所を23区以外の病院に限定：79.4%
⇒多摩地域への勤務要件の追加も、診療科の拡大とあわせて行うことで、受験意欲の低下を防ぐことが可能

総合的な満足度

- 「満足している・どちらかと言えば満足している」の選択割合は88.3%
年代別では、在学生のみ（1～6年生）の場合92.6%に対し、卒業生のみ（医師1～5年目）の場合78.8%
⇒満足度は高いが、年次が上がるにつれて、選択可能な診療科や臨床研修病院を出身大学附属とすること等をキャリアの制限と感じる者が増える傾向

その他

- 初期臨床研修先の拡大や留学・大学院進学への許容など、キャリアアップへの配慮を求める意見が複数